

3. 回答者のプロフィール

(1) 性別・年代

① 性別

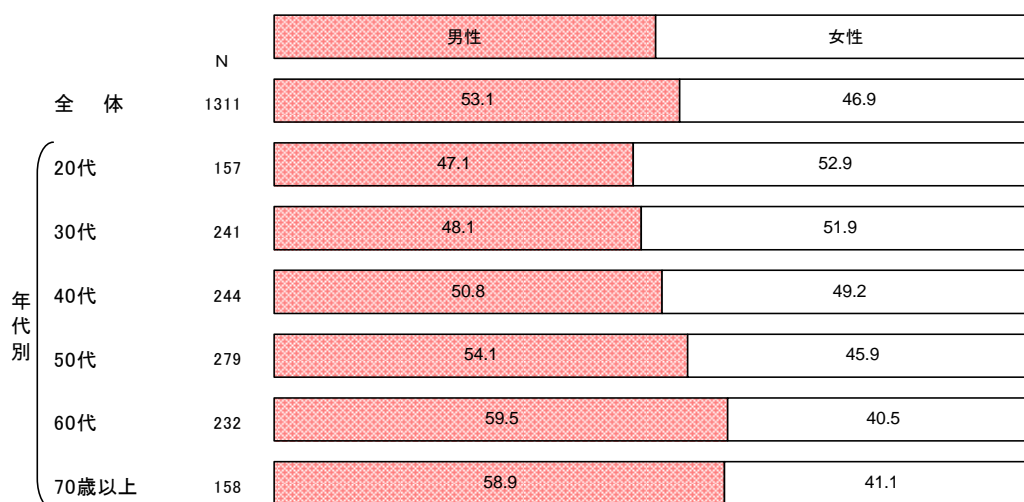
回答者の性別は、「男性」が 53.1%、「女性」が 46.9%となっている。

年代別で見ると、60代と70歳以上の“高齢層”では、「男性」が60%程度、「女性」が40%程度となっている。

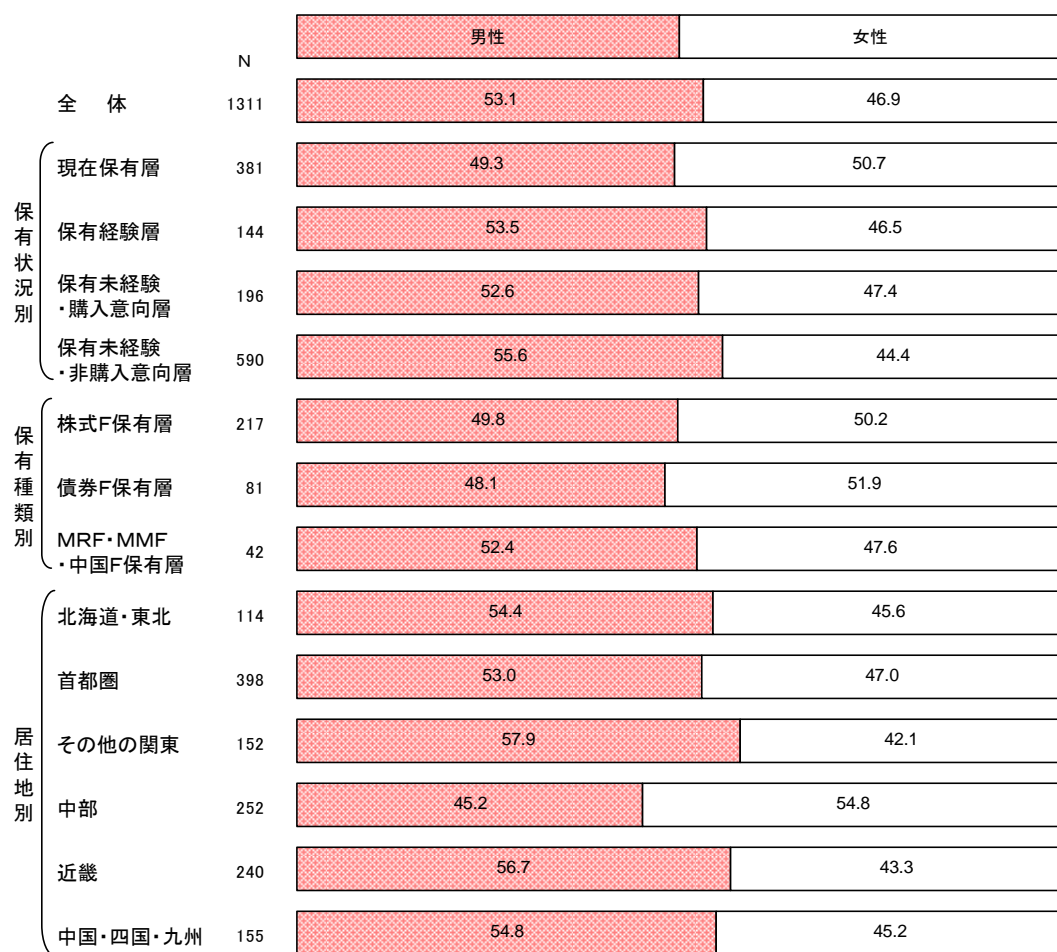
投資信託保有種類別(現在保有者)では、株式ファンド保有層、債券ファンド保有層、MRF・MMF・中期国債ファンド保有層いずれも、「男性」「女性」が概ね半数ずつとなっている。

居住地別では、中部では「男性」が45.2%、「女性」が54.8%と、「女性」の方が「男性」より高かったが、それ以外の地域では「男性」の方が高くなっている。

【性別／基本軸1(単数回答)】



【性別／基本軸2（単数回答）】



② 年代

回答者の年代は、「50代」21.3%、「40代」18.6%、「30代」18.4%、「60代」17.7%となっている。

性別で見ると、男性が「50代」21.7%、「60代」19.8%、「40代」17.8%と40～60代、女性では「50代」20.8%、「30代」20.3%、「40代」19.5%、と30～50代が中心となっている。

投資信託保有状況別で見ると、現在保有層と保有経験層では、『40代以上』が90%前後となっており、保有未経験・購入意向層(投資信託保有経験はないが、これまで購入したいと思ったことがある者)と保有未経験・非購入意向層(投資信託保有経験がなく、これまで購入したいと思ったこともない者)では『30代以下』が40%程度となっている。

投資信託保有種類別(現在保有者)で見ると、債券ファンド保有層では『40代以上』が90%以上と高い。

居住地別で見ると、中部と近畿では「20代」が低く、『50代以上』が他の地域に比べて高い。北海道・東北と首都圏では、『60代以上』が他の地域に比べて低い。

【年代／基本軸1(単数回答)】

		N	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
性別	全体	1311	12.0	18.4	18.6	21.3	17.7	12.1
	男性	696	10.6	16.7	17.8	21.7	19.8	13.4
	女性	615	13.5	20.3	19.5	20.8	15.3	10.6

【年代／基本軸2（単数回答）】



(2) 職業

回答者の職業については、有職者では、「自営商・サービス業」が16.6%、「事務系の勤め人」が15.9%となっており、これに「技術系の勤め人」(8.8%)、「管理職・役員」(7.1%)が続いている。一方、「無職・その他」は40.4%となっている。

性別では、男性の70%程度が有職者であるが、女性では「無職・その他」が55.0%となっている。

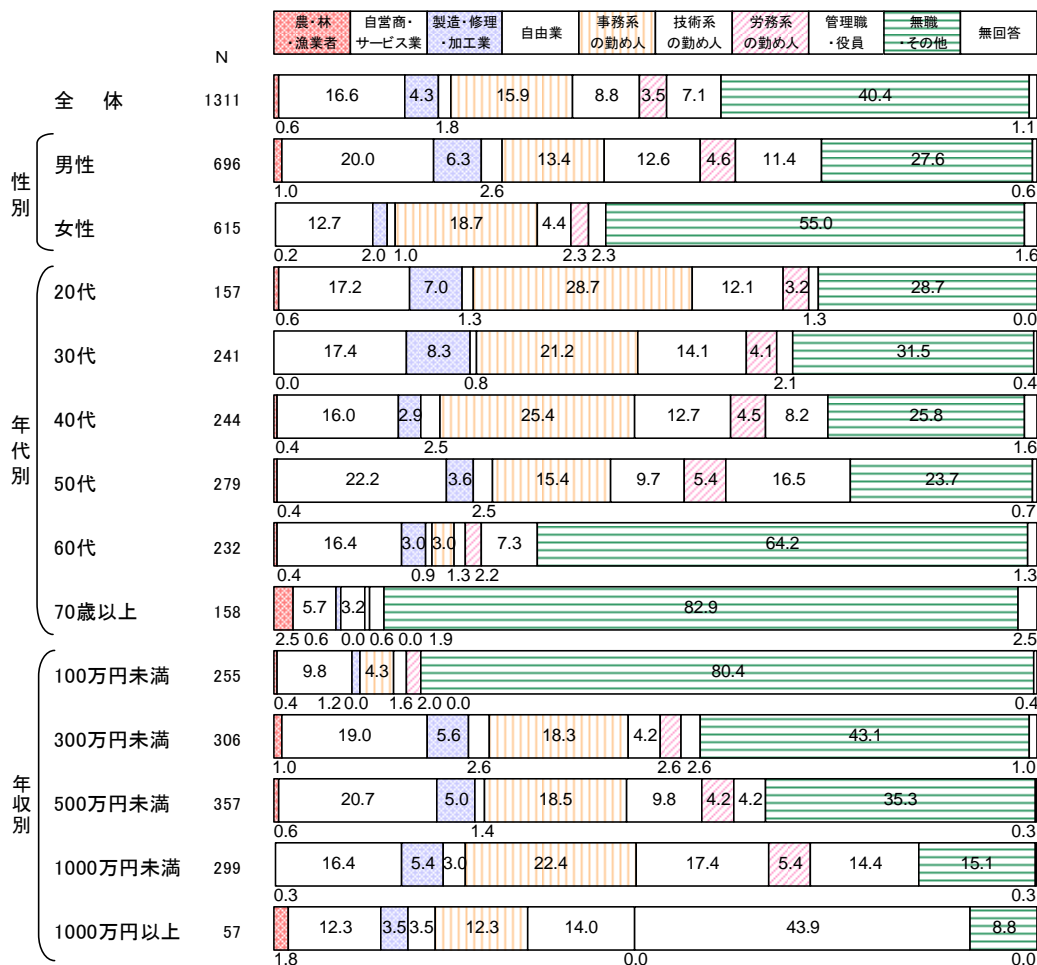
年代別では、60代と70歳以上で「無職・その他」がそれぞれ64.2%、82.9%と高い。

年収別でみると、100万円未満では「無職・その他」が80.4%を占める。有職者に着目すると、300万円未満と500万円未満で「自営商・サービス業」が20%程度、「事務系の勤め人」が18%程度であり、1000万円未満では「事務系の勤め人」が22.4%となっている。1000万円以上では「管理職・役員」が43.9%を占める。

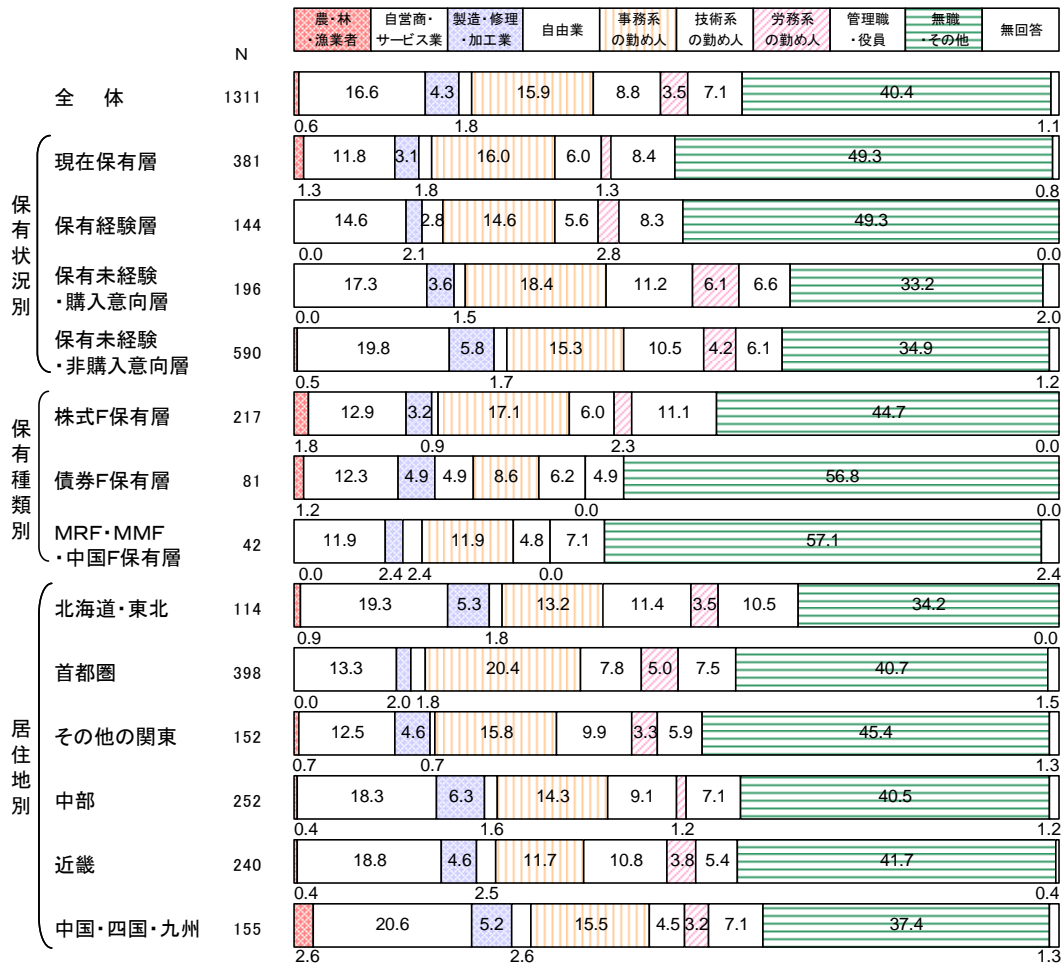
投資信託保有状況別でみると、現在保有層、保有経験層ともに「無職・その他」が49.3%となっている。保有未経験・購入意向層、保有未経験・非購入意向層では有職者が65%程度で、中でも「事務系の勤め人」「自営商・サービス業」の比率が高くなっている。

居住地別でみると、有職者については、首都圏とその他関東では他の地域に比べて「自営商・サービス業」が低く、首都圏では「事務系の勤め人」がやや高い。北海道・東北では「無職・その他」が低い。

【職業／基本軸1(単数回答)】



【職業／基本軸2 (単数回答)】



(3) 投資信託の保有状況

回答者の投資信託の保有状況については、「現在持っている」という“現在保有層”が29.1%、「以前持っていたが現在は持っていない」という“保有経験層”が11.0%、「これまで持ったことがない・無回答」という“保有未経験層”が60.0%となっている。

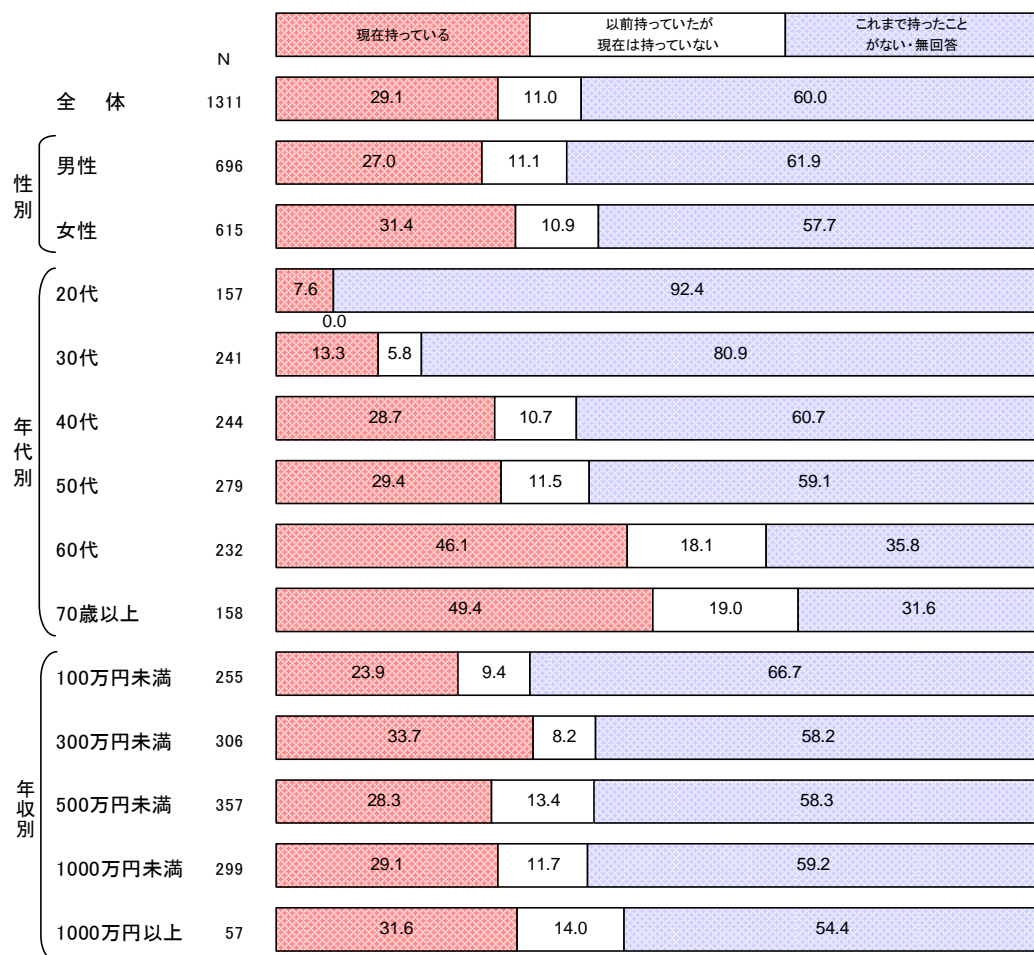
性別では、「現在持っている」は、男性が27.0%、女性が31.4%と女性の方がわずかに高いものの、保有状況に大きな違いはみられない。

年代別では、「現在持っている」が60代と70歳以上で50%程度、40代と50代では30%程度となっており、年代が上がるほど保有率が高くなっている。

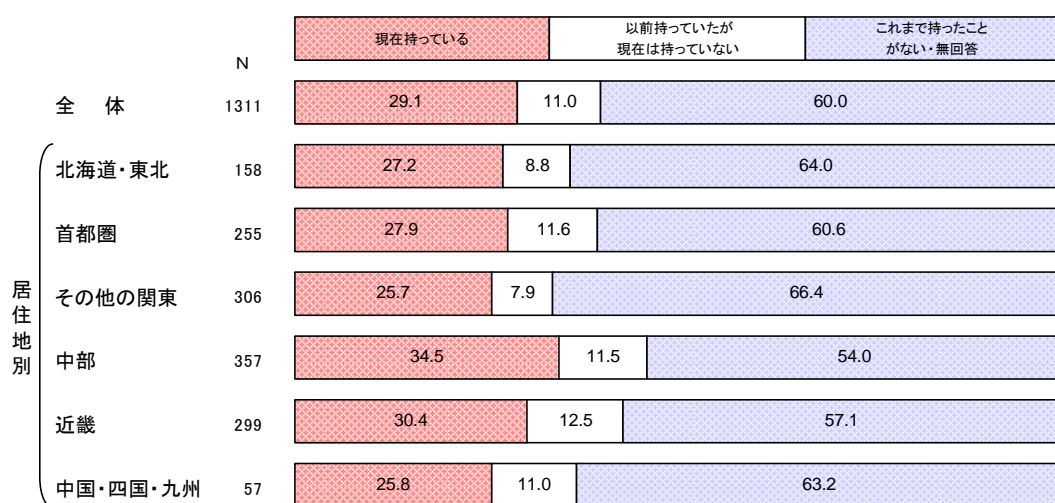
年収別では、「現在持っている」が100万円未満で23.9%とやや低いが、他層では30%前後となっている。

居住地別では、「現在持っている」が中部で34.5%、近畿で30.4%と他の地域に比べて高くなっている。

【投資信託の保有状況／基本軸1（単数回答）】



【投資信託の保有状況／基本軸2（単数回答）】



【参考：平成15年調査結果】

※平成18年調査から調査対象・方法を変更している点に注意が必要。

(N=1801)

現在保有層(世帯)	26.9
保有経験層(世帯)	23.0
保有未経験層(世帯)	50.1

(4) 保有貯蓄総額

回答者の現在の保有貯蓄総額については、「100万円未満」が19.8%、「～1000万円未満」が18.4%、「～300万円未満」が17.6%で、平均833.7万円となっている。

※ちなみに、一般個人を対象とした日本証券業協会 証券教育広報センター「証券投資に関する全国調査」(平成18年11月)では、保有金融商品の合計額は平均442.5万円であった。

性別では、男性が平均876.9万円、女性が784.4万円となっている。

年代別では、70歳以上が平均1506.0万円で最も高く、これに60代が1304.8万円、50代が1027.5万円と続き、最も低い20代では165.8万円となっている。

年収別では、1000万円以上が1558.2万円と最も高く、次いで1000万円未満が946.2万円となっている。

投資信託保有状況別では、現在保有層が平均1333.7万円で最も高く、保有未経験・非購入意向層では553.5万円と最も低い。

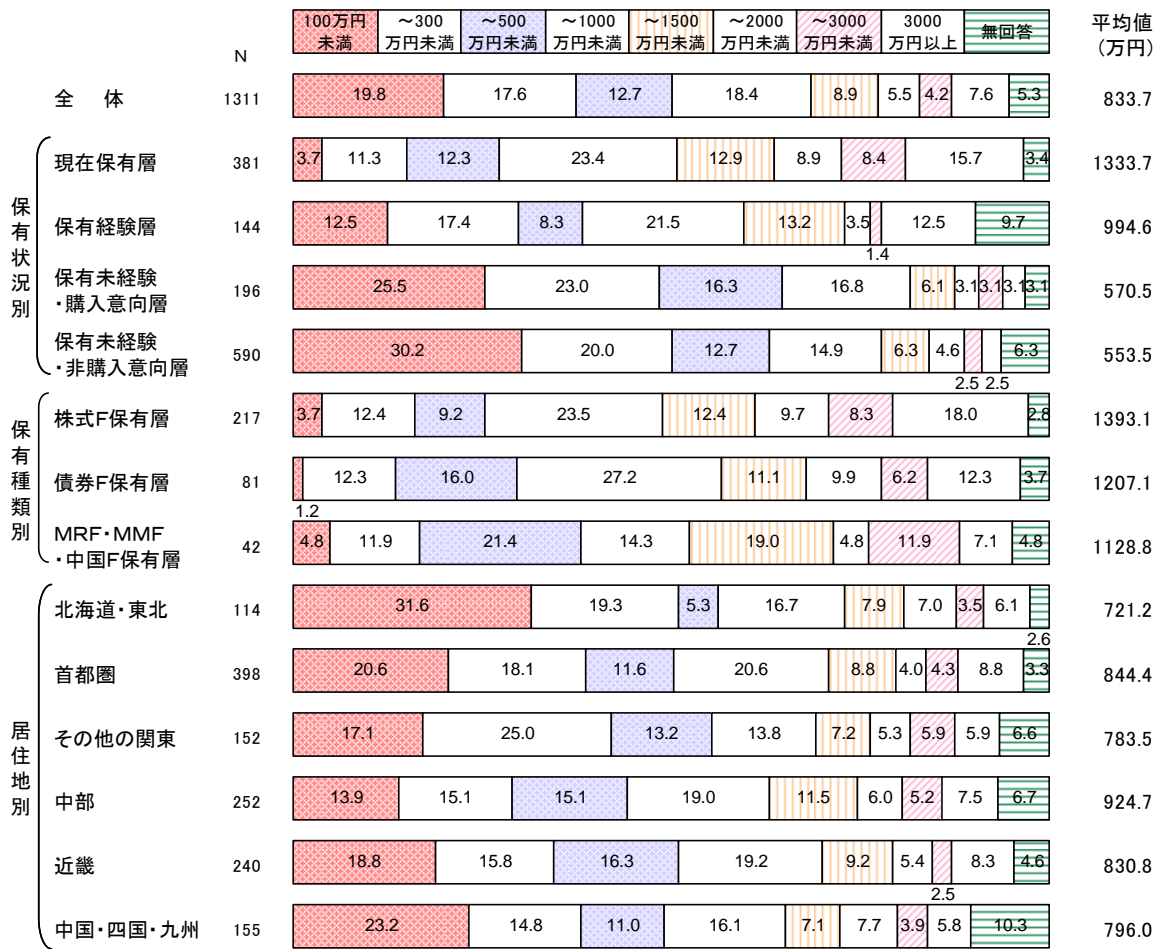
投資信託保有種類別では、平均金額が高い順に、株式ファンド保有層1393.1万円、債券ファンド保有層1207.1万円、MR F・MMF・中期国債ファンド保有層1128.8万円の順となっている。

居住地別でみると、中部では平均924.7万円で最も高く、北海道・東北が721.2万円で最も低くなっている。

【保有貯蓄総額／基本軸1(単数回答)】



【保有貯蓄総額／基本軸2（単数回答）】



(5) 年収

回答者の年収については、「～500万円未満」が27.2%、「～300万円未満」が23.3%、「～1000万円未満」が22.8%で、平均392.4万円となっている。

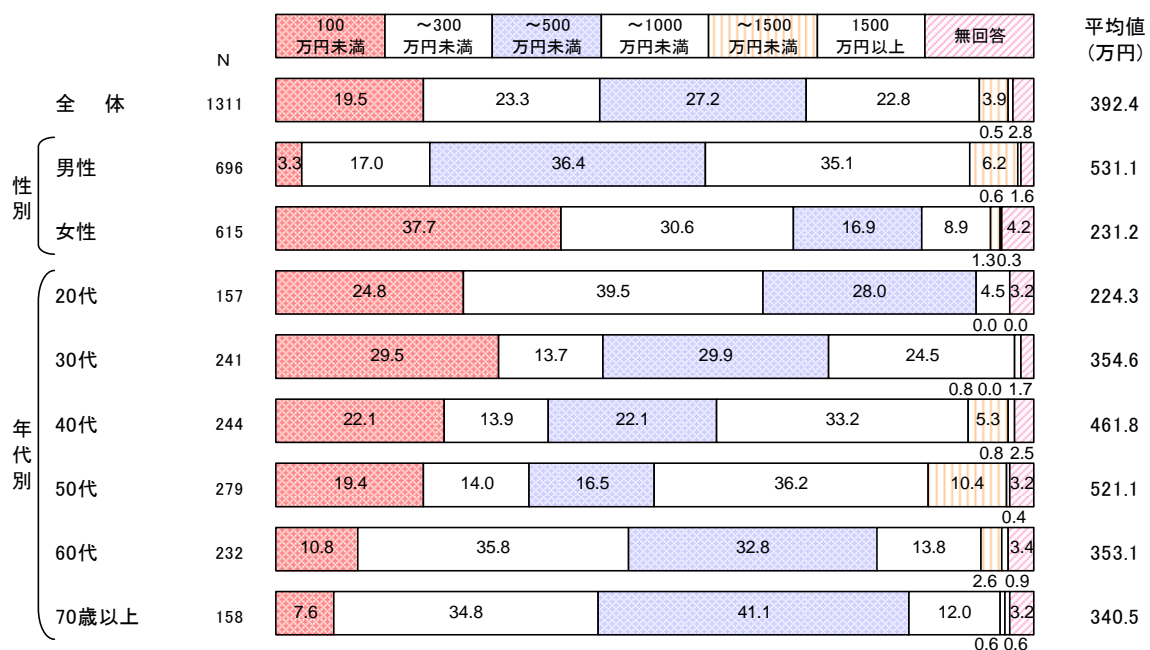
性別では、男性が平均531.1万円、女性が231.2万円となっている。

年代別では、50代が平均521.1万円と最も高く、次いで40代が461.8万円、30代が354.6万円と続き、最も低い20代では224.3万円となっている。

投資信託保有状況別では、保有経験層が平均435.0万円と最も高く、保有未経験・購入意向層416.9万円、現在保有層401.8万円と続き、保有未経験・非購入意向層が368.0万円と最も低い。

投資信託保有種類別では、株式ファンド保有層が平均456.7万円と最も高い。

【年収／基本軸1（単数回答）】



【年収／基本軸2（単数回答）】

		N	100万円未満	~300万円未満	~500万円未満	~1000万円未満	~1500万円未満	1500万円以上	無回答	平均値(万円)
全 体		1311	19.5	23.3	27.2	22.8	3.9	0.5 2.8		392.4
保有状況別	現在保有層	381	16.0	27.0	26.5	22.8	3.7	1.0 2.9		401.8
	保有経験層	144	16.7	17.4	33.3	24.3	4.9	0.7 2.8		435.0
	保有未経験・購入意向層	196	20.4	18.4	26.0	27.6	3.6	3.6		416.9
	保有未経験・非購入意向層	590	22.0	24.1	26.6	20.8	3.9	0.5		368.0
保有種類別	株式F保有層	217	12.9	24.0	26.7	26.3	5.1	3.2	1.8	456.7
	債券F保有層	81	24.7	35.8	22.2	13.6	2.5	0.0 1.2		291.3
	MRF・MMF・中国F保有層	42	19.0	31.0	23.8	19.0	2.4	0.0		340.0
居住地別	北海道・東北	114	17.5	28.9	31.6	16.7	2.6	1.8 0.9		370.4
	首都圏	398	21.1	16.6	25.9	25.9	6.3	3.8	0.5	436.8
	その他の関東	152	18.4	21.1	27.0	27.0	2.6	0.7		408.8
	中部	252	19.8	31.3	23.8	20.6	1.6	0.0 2.8		336.1
	近畿	240	18.3	25.8	27.1	22.9	3.8	0.4 1.7		388.8
	中国・四国・九州	155	18.7	21.9	33.5	18.7	3.9	3.2	0.0	377.3

(6) 主な収入源

回答者の収入源(重複回答)については、「給与所得」が61.3%で最も高く、これに「恩給・年金」が27.3%、「利子・配当」が22.7%が続いている。

性別でみると、収入源(重複回答)は、男性・女性ともに「給与所得」、「恩給・年金」、「利子・配当」の順に高いが、これに続くのは男性では「事業所得」(13.2%)、女性では「その他」(14.8%)となっている。

年代別でみると、収入源(重複回答)は、20代～50代までは「給与所得」、60代と70歳以上では「恩給・年金」が高く、「利子・配当」は年代が上がるにつれて高くなっている。

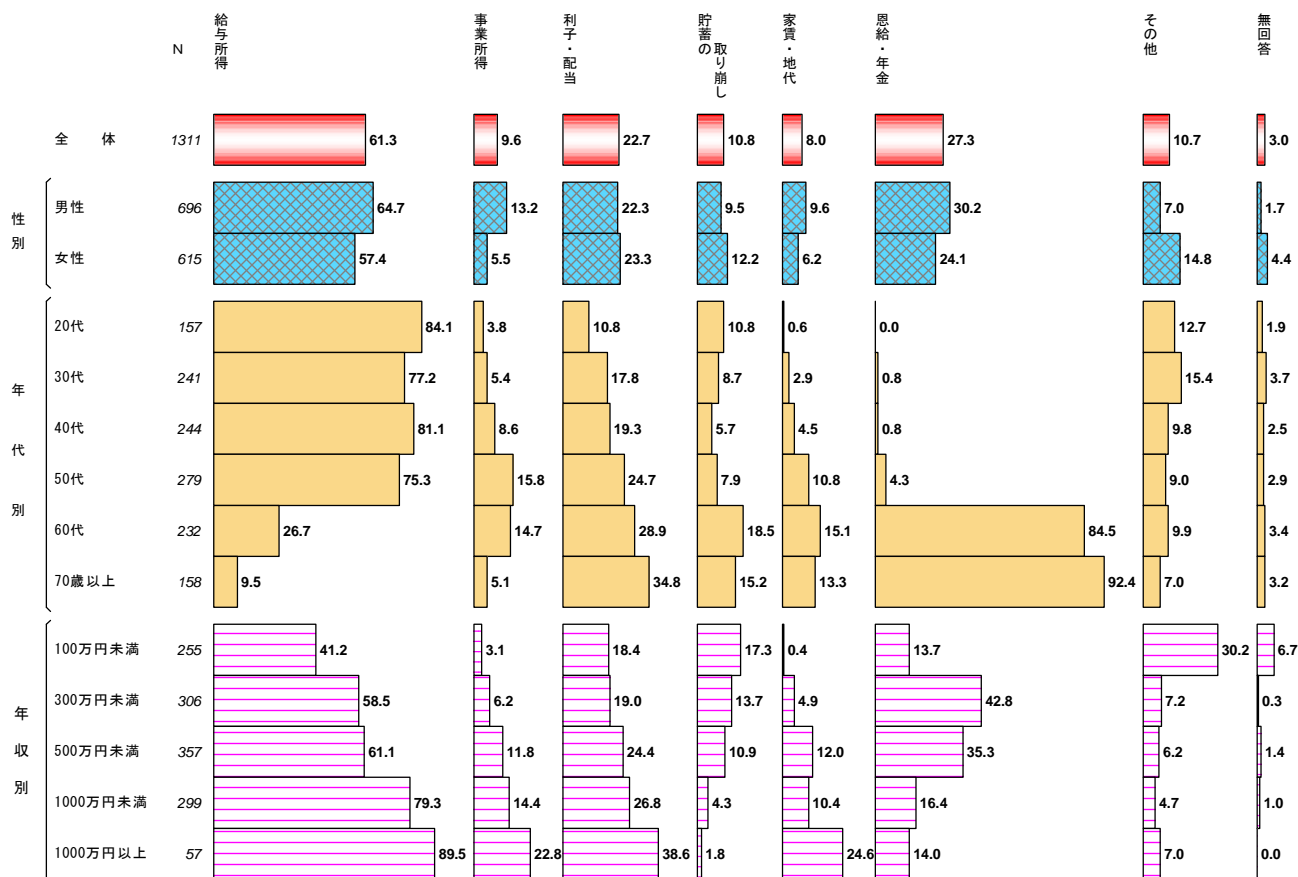
年収別の収入源(重複回答)については、「給与所得」「事業所得」「利子・配当」は年収が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。また、「恩給・年金」は、300万円未満と500万円未満の層を中心に高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層と保有経験層では「恩給・年金」「利子・配当」、保有未経験層では「給与所得」が高い。

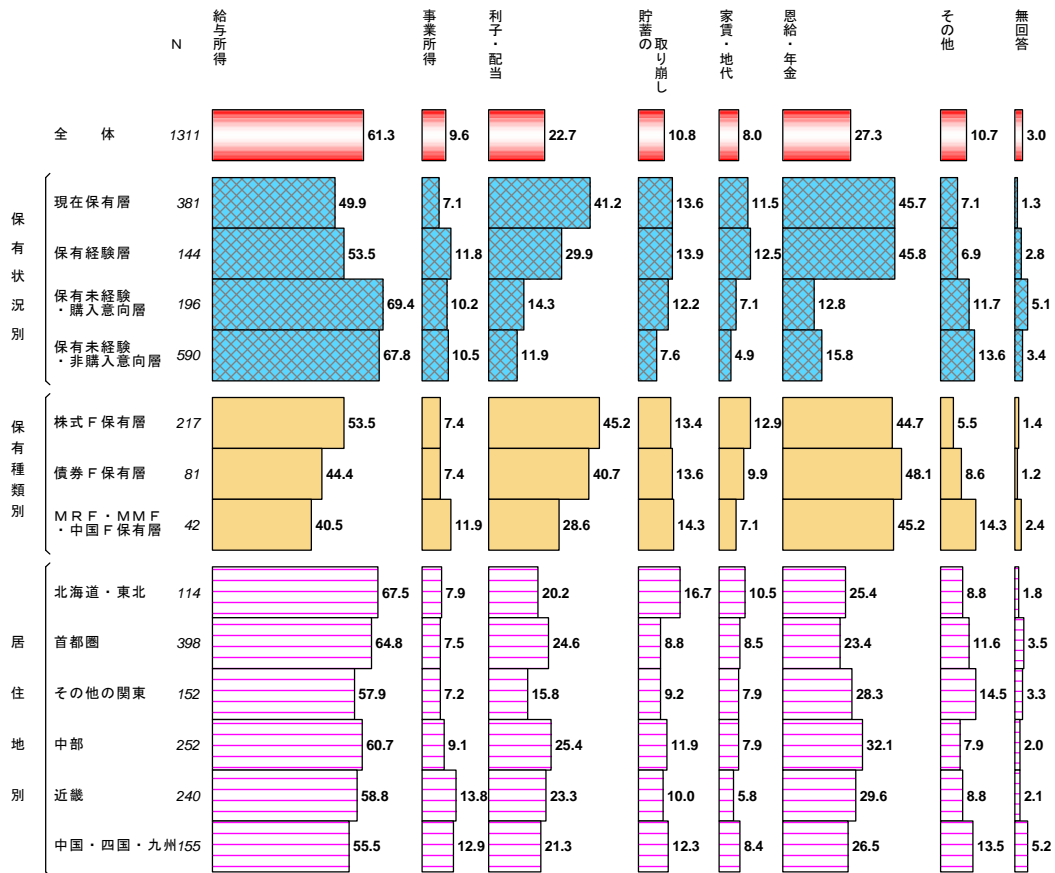
投資信託保有種類別でみると、「給与所得」「利子・配当」「家賃・地代」では、高い順に株式ファンド保有層、債券ファンド保有層、MRF・MMF・中期国債ファンド保有層となっている。

なお、主な収入源(単数回答)をみると、「給与所得」が55.8%、「恩給・年金」が20.5%となっており、この2つで75%以上を占めている。

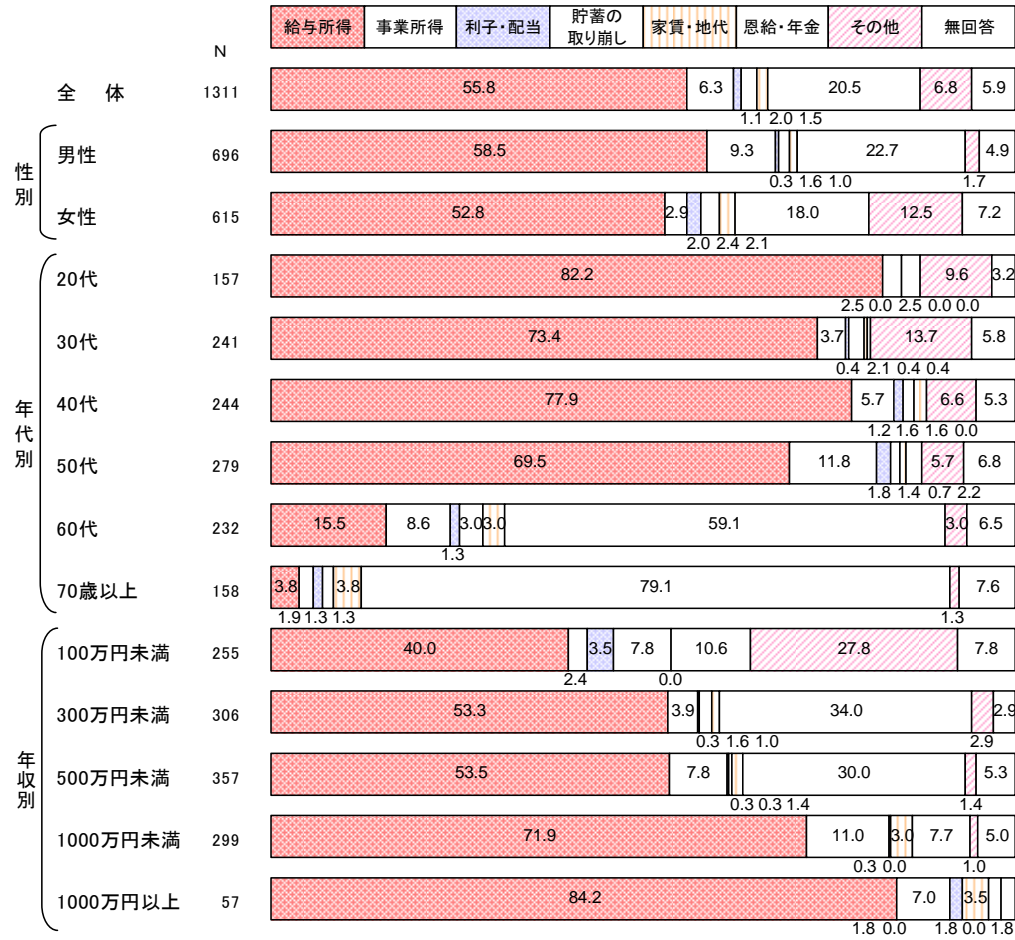
【収入源／基本軸1(重複回答)】



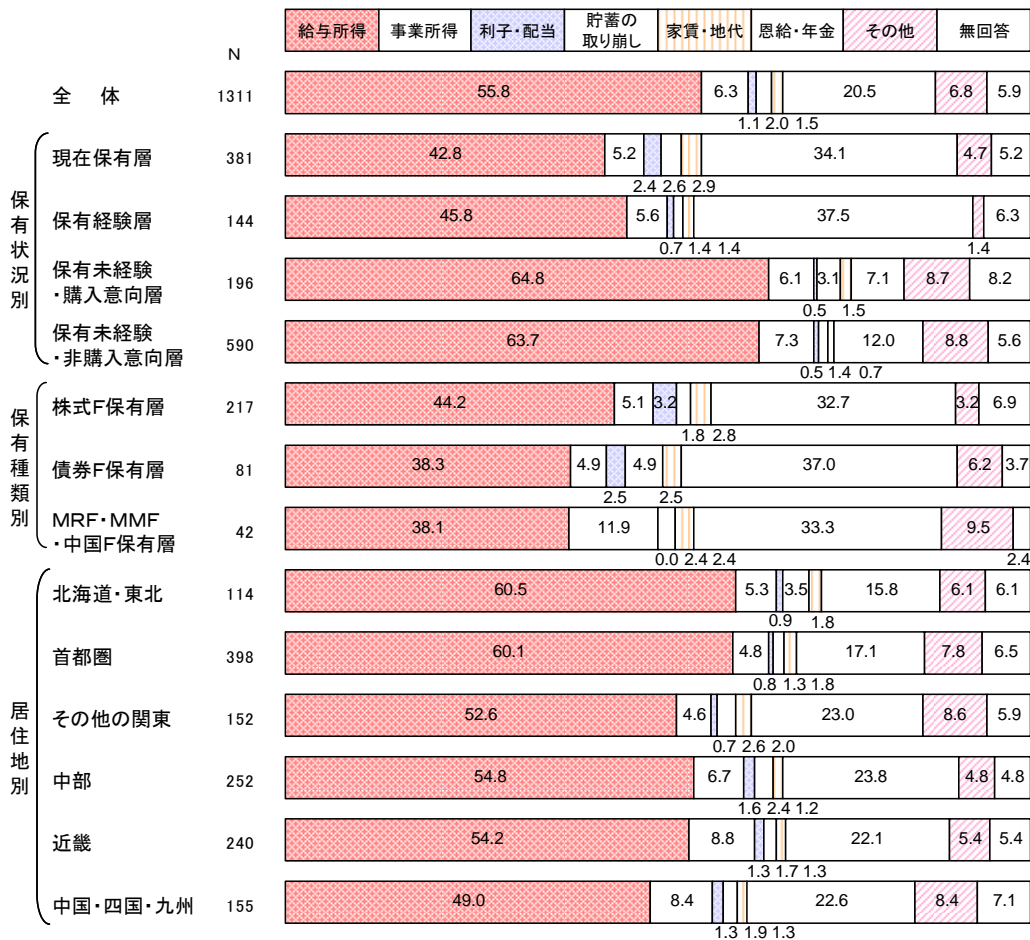
【収入源／基本軸2（重複回答）】



【主な収入源／基本軸1(単数回答)】



【主な収入源／基本軸2(単数回答)】



(7)居住地

回答者の居住地については、「首都圏」(30.4%)、「中部」(19.2%)、「近畿」(18.3%)の順となっており、次いで「中国・四国・九州」(11.8%)、「その他の関東」(11.6%)、「北海道・東北」(8.7%)となっている。

性別では、女性が「中部」でやや高いほかは大きな差はみられない。

年代別では、20代～60代では「首都圏」が30%前後となっており、70歳以上では「中部」が27.2%、「首都圏」が21.5%となっている。また、60代では「中国・四国・九州」が他の年代に比べてやや高い。

年収別で見ると、1000万円以上では「首都圏」が47.4%と半数近くを占め、1000万円未満も34.4%と他の地域に比べて高い。一方、100万円未満も「首都圏」は32.9%と他の地域よりも高い。

投資信託保有状況別で見ると、現在保有層では「首都圏」が29.1%、「中部」が22.8%、「近畿」が19.2%となっている。

【居住地／基本軸1(単数回答)】

		N	北海道・東北	首都圏	その他の関東	中部	近畿	中国・四国・九州
性別	全体	1311	8.7	30.4	11.6	19.2	18.3	11.8
	男性	696	8.9	30.3	12.6	16.4	19.5	12.2
	女性	615	8.5	30.4	10.4	22.4	16.9	11.4
年代別	20代	157	9.6	31.2	14.0	15.3	13.4	16.6
	30代	241	7.5	35.3	9.1	20.3	18.3	9.5
	40代	244	10.7	30.7	15.2	16.0	17.2	10.2
	50代	279	9.3	32.3	8.6	20.1	19.7	10.0
	60代	232	6.0	28.0	12.1	17.7	21.1	15.1
	70歳以上	158	9.5	21.5	12.0	27.2	18.4	11.4
	年収別	100万円未満	255	7.8	32.9	11.0	19.6	17.3
300万円未満		306	10.8	21.6	10.5	25.8	20.3	11.1
500万円未満		357	10.1	28.9	11.5	16.8	18.2	14.6
1000万円未満		299	6.4	34.4	13.7	17.4	18.4	9.7
1000万円以上		57	8.8	47.4	8.8	7.0	17.5	10.5

【居住地／基本軸2（単数回答）】

		N	北海道・東北	首都圏	その他の 関東	中部	近畿	中国・四国 ・九州	
保有 状況 別	全 体	1311	8.7	30.4	11.6	19.2	18.3	11.8	
	現在保有層	381	8.1	29.1	10.2	22.8	19.2	10.5	
	保有経験層	144	6.9	31.9	8.3	20.1	20.8	11.8	
	保有未経験 ・購入意向層	196	10.7	29.6	11.2	17.9	18.9	11.7	
	保有未経験 ・非購入意向層	590	8.8	31.0	13.4	17.1	16.9	12.7	
	保有 種類 別	株式F保有層	217	7.8	29.5	11.1	21.7	18.0	12.0
		債券F保有層	81	9.9	25.9	12.3	22.2	21.0	8.6
		MRF・MMF ・中国F保有層	42	11.9	28.6	7.1	28.6	16.7	7.1

(8) 閲読新聞

回答者の閲読新聞については、「その他・地方紙」を除くと、「朝日新聞」が28.2%、「読売新聞」が25.7%、「日本経済新聞」が18.2%となっている。

「その他・地方紙」(34.0%)の自由回答では、ブロック紙・地方紙名が挙げられている。

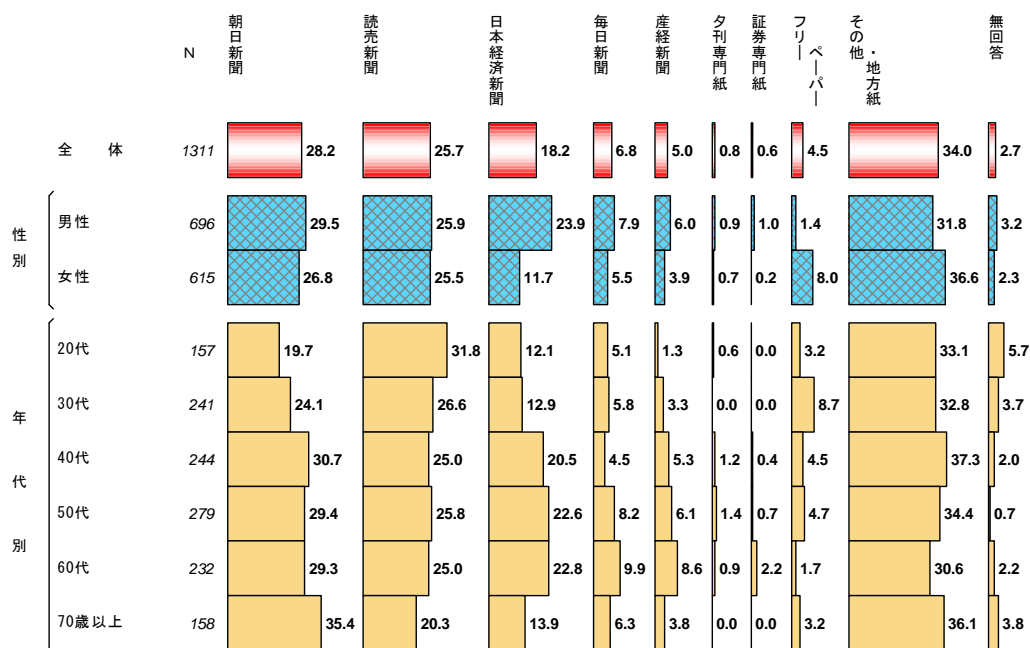
性別では、「日本経済新聞」は男性が23.9%と女性より高く、「その他・地方紙」では女性が36.6%と男性よりも高くなっている。

年代別では、「朝日新聞」は年代が上がるにつれ、「読売新聞」は年代が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。「日本経済新聞」は40代～60代で20%以上と他の年代に比べて高い。

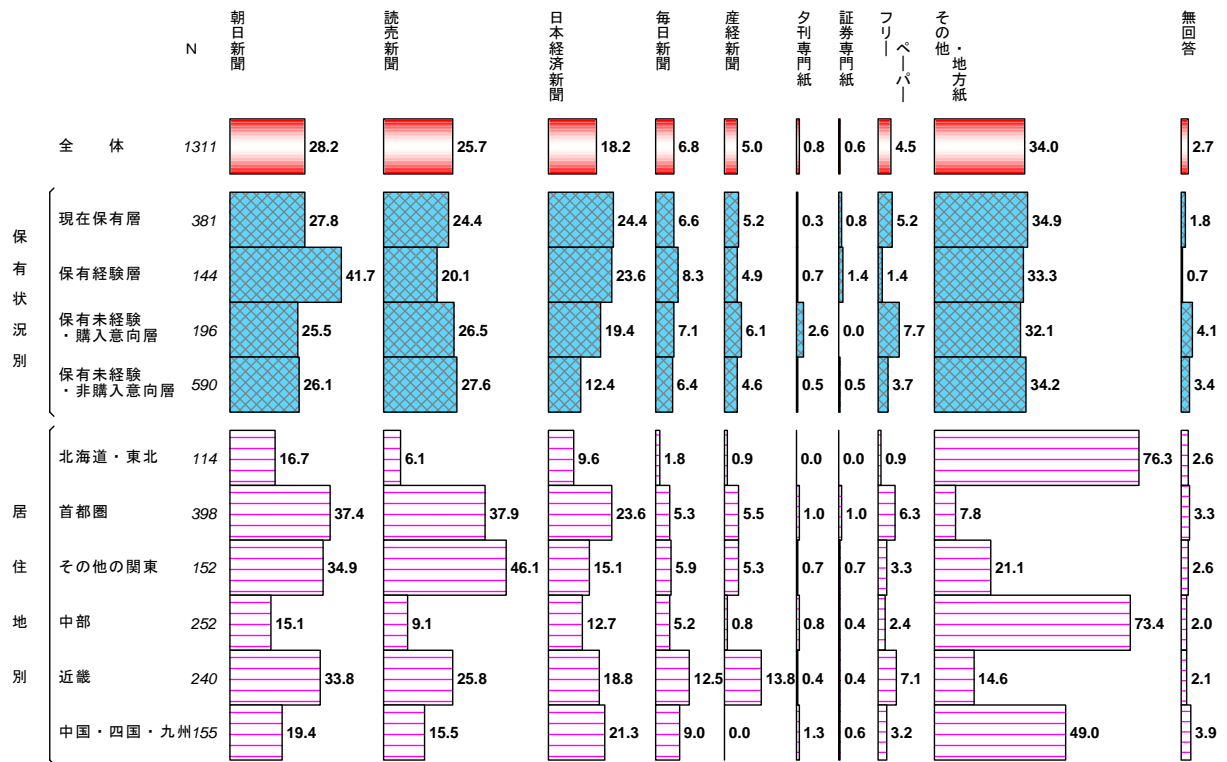
投資信託保有状況別では、「朝日新聞」は保有経験層で41.7%と高い。「日本経済新聞」は現在保有層と保有経験層で他層に比べてやや高くなっている。

居住地別では、「その他・地方紙」は北海道・東北、中部、中国・四国・九州で特に高い。「朝日新聞」は首都圏、その他関東、近畿で、「読売新聞」は首都圏とその他関東で高く、「日本経済新聞」は首都圏、中国・四国・九州、近畿で高くなっている。

【閲読新聞／基本軸1(重複回答)】



【閲読新聞／基本軸2（重複回答）】



(9) 閲読雑誌

回答者の閲読雑誌については、無回答と「その他」を除くと、「週刊現代／週刊新潮／週刊文春／週刊ポスト」が21.7%、「オレンジページ」が13.4%、「週刊朝日／サンデー毎日／読売ウィークリー」が10.5%となっている。

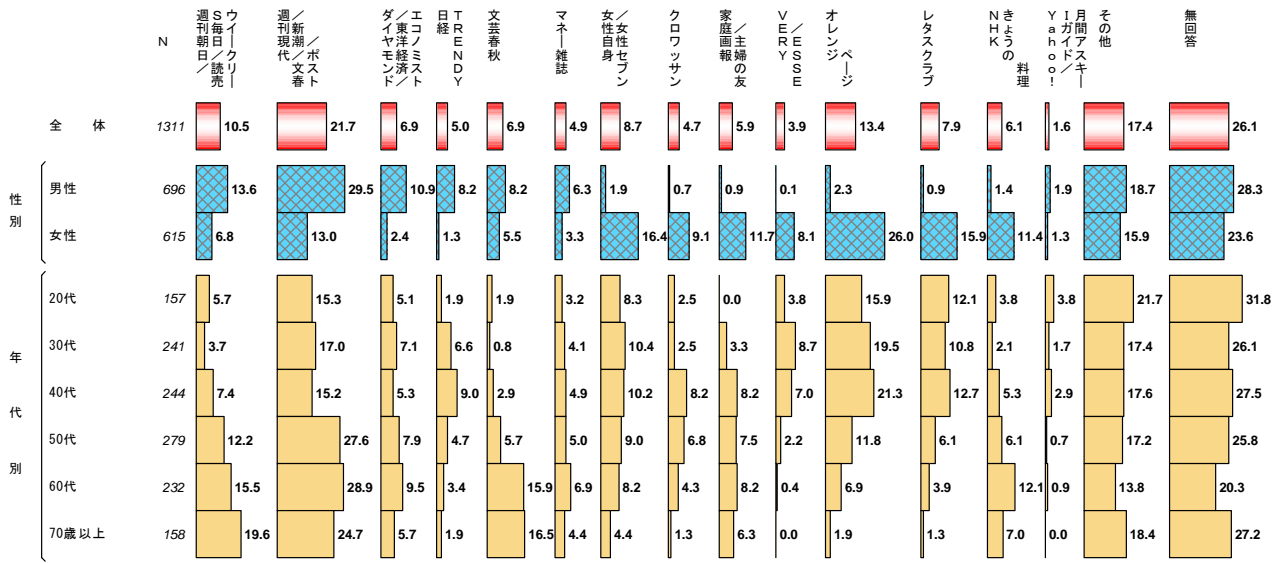
「その他」(17.4%)の自由回答では、「プレジデント」「日経ビジネス」のほか趣味・健康関連雑誌、ファッション誌などが挙げられている。

性別では、「週刊現代／週刊新潮／週刊文春／週刊ポスト」は男性が29.5%、「オレンジページ」は女性が26.0%と高く、これ以外の雑誌についても男女差が明確に表れている。

年代別では、「週刊現代／週刊新潮／週刊文春／週刊ポスト」「週刊朝日／サンデー毎日／読売ウィークリー」は50代～70歳以上、「オレンジページ」は20代～40代を中心に閲読率が高い。

投資信託保有状況別では、「週刊現代／週刊新潮／週刊文春／週刊ポスト」は保有経験層で28.5%と高く、保有未経験・購入意向層と、保有未経験・非購入意向層では、「オレンジページ」がそれぞれ16.8%、16.3%と他層に比べてやや高い。

【閲読雑誌／基本軸1(重複回答)】



【閲読雑誌／基本軸2(重複回答)】

